東京大学における
アクティブ・ラーニングの取り組み

ーグローバル人材の育成へ向けてー

東京大学大学院教育学研究科
准教授　北村 友人

グローバル人材とは？

- モビリティーが高い“越境者”たちは、世の中に「当たり前はない」ことをよく知っている。そうした人材には、「対話と交渉によって物事を進めていく精神」が求められている。（日比谷潤子・国際基督教大学学長）

- 意識変容の学習（transformative learning）
- 自己決定型学習（self-directed learning）
- 自立学習（autonomous learning）

→ 語学力に象徴されるスキル（技能）の向上よりも、態度や姿勢、価値観を重視する傾向

グローバル人材育成と「アクティブ・ラーニング」 ①

「知識」を使えるグローバル人材の育成

↓

アクティブ・ラーニング＝「能動的な学習」の導入

【アクティブ・ラーニングを取り入れた様々な授業形態】

- 学生参加型授業
- 各種の共同研究を取り入れた授業
- 各種の学習形態を取り入れた授業
- PBLを取り入れた授業（Problem-Based Learning/Project-Based Learning)

(Kawaijyuku Gildeline 2010.11参照)

グローバル人材育成と「アクティブ・ラーニング」 ②

- 変容するグローバル社会のニーズに対応する新しい知の創出　⇒ 「教育の高度化」

- 従来の教養教育、専門教育に加えて、大学の国際化を通じてアクティブ・ラーニングが拡大。

東大におけるアクティブ・ラーニング導入の背景と経緯

- **東大アクションプラン**（2005年～、小宮山前々総長）

「理想の教養教育の追及」

  - 本質を捉える知、他者を感じる力、先頭に立つ勇気を備えた人材の育成
  - 「理想の教育棟」、教育IT化の体制強化
  - アクティブ・ラーニングを可能とする教育手法・教育環境を開発し、教養教育に導入する

- **学部教育の総合的改革**（2013年～、濱田前総長 → 五神総長）
  - アクションリストの作成
  - Ⅰ　学びの質の向上・量の確保
  - Ⅱ　主体的な学びの促進
  - Ⅲ　流動性の向上と学習機会の多様化　etc.

付属教養教育高度化機構の設立（KALS）

【名称】駒場アクティブラーニングスタジオ（KALS）

【設立年】 2007年5月

【実施体制】 3部局（教養学部・情報学環・大学総合教育研究センター）での計画管理、3名の専任スタッフ

【特徴】

- ICTを中心としたツールの利用
- スタジオ型の教室による
  柔軟な空間構成
- 毎学期　週10～15コマ の授業

（2015年は増加予定）

付属教養教育高度化機構の設立（KALS）

KALSにおけるアクティブ・ラーニング

Input 資料・データ・映像など → Transform 分析・評価 → Output 統合

データ・情報・映像などのインプットを、
読解・ライティンク・討論を通して分析・評価し、
その成果を統合的にアウトプットする能動的な学習

付属教養教育高度化機構の設立（KOMCEE)

【名称】 21 Komaba Center for Educational Excellence

【設立年】 2011年

【特徴】

学びやすさと環境に配慮したキャンパス施設として、WestとEastの二棟からなる教育棟。

講義室、基礎実験室、スタジオ教室 と組み合わせることで、授業と実験、ディスカッションが一連の空間で実施可能となり、学生の主体的な学びを推進。

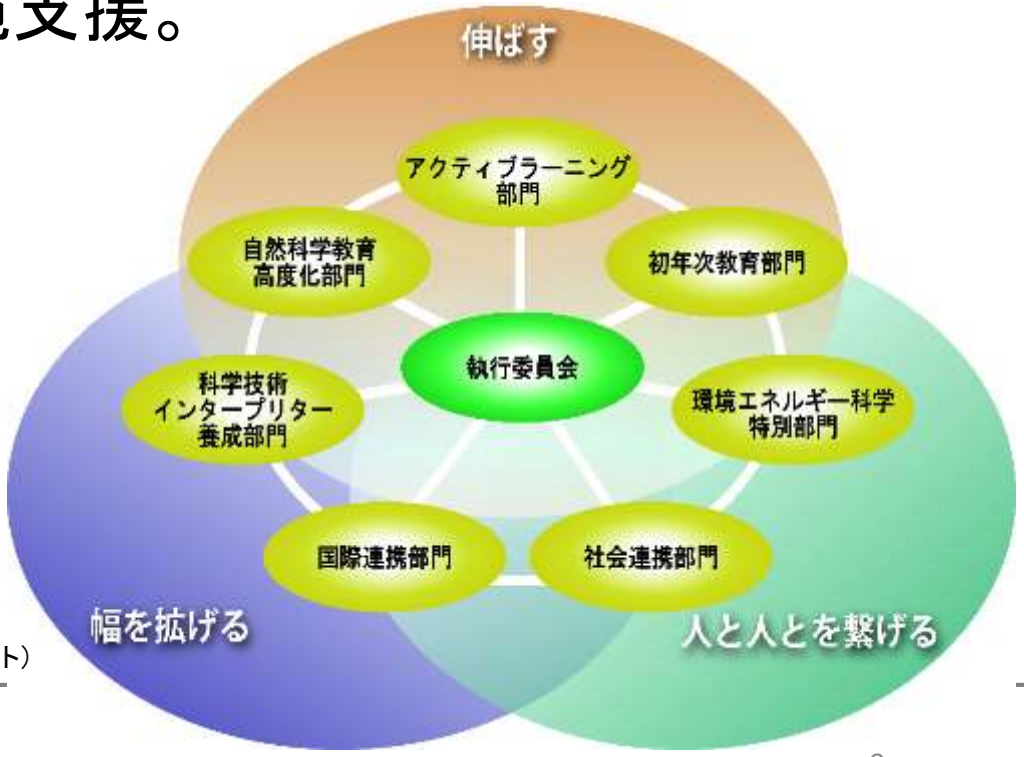
付属教養教育高度化機構の設立（KOMEX)

【名称】 大学院総合文化研究所・教養学部
付属教養教育高度化機構（KOMEX）

【設立年】 2010年4月

【特徴】教養学部において、部会・学科の枠組みを超え取り組むべき教育プログラムの実施支援。

→ 知識の構造化
→ 大学の国際化のためのFD
→ 教養人育成モデルの開発
→ 全国の大学教育への貢献

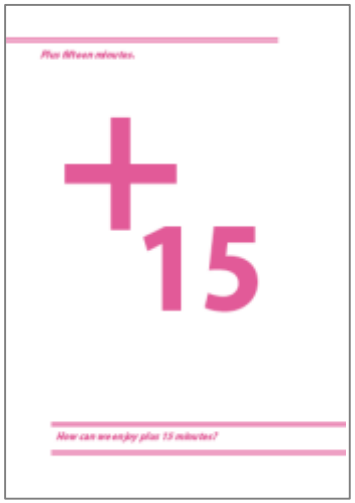


(参考：KOMEXウェブサイト)

講義におけるアクティブ・ラーニング導入の支援①

- 手引書「＋１５」（KOMEX発行)
- 2015年より授業時間が105分と15分増えることによる教員と学生への影響と留意点を概観し、協同学習にうまく活用できるように具体的な授業手法を紹介した冊子。

http://www.kals.c.u-tokyo.ac.jp/dalt/wp-content/uploads/2014/09/plus15minutes.pdf



【目次：＋15分の活動】
・授業をスムーズに始めるための手法
・ディスカッションの手法
・学生同士の教えあい・学びあいの手法
・振り返りの手法

講義におけるアクティブ・ラーニング導入の支援②

【1．初年次ゼミナール】

- 基礎となる学術的スキルを早期に習得させるための授業
- 主体的な学びの促進、顔の見えあう、少人数チュートリアル授業

科目区分：　基礎科目2単位（全学生必修）
クラス規模：約20名
開講学期：　第一セメスター（4-7月）週1回（105分）
クラス編成：選択制、12-15個程度の授業からシラバスを元に学生が第4希望まで登録
サポート体制：　ガイドライン、共通教材、TAの配置、教員のFDとTAトレーニング等

科類編成による前期課程カリキュラム区分	
初年次ゼミナール文科	授業タイプ（例） - ディシプリン型 - フィールド型 - 批評型 - 研究計画立案型
初年次ゼミナール理科	

講義におけるアクティブ・ラーニング導入の支援③

【2. 全学ゼミナール】

- 教養学部主催、選択必修科目（2単位）
- 現実の世界を知り、自ら研究体験できる創造的な活動の機会を提供

種類	事例
全学自由研究ゼミナール	• MOOC（動画学習サイト）「Visualizing Postwar Tokyo」を用いた反転学習型授業 • アクティブラーニングで未来の学びを考える、など
全学体験ゼミナール	• 工学部ものづくり体験ゼミ • 電気自動車を作ろう • 未来のグループワークを体験する、など

グローバル社会への対応

- Programs in English at Komaba (PEAK)（教養学部英語コース）
- Abroad in Komaba (AIKOM)（交換留学制度）
- 東大生海外体験プロジェクト（海外企業体験活動）
- FLY (Freshers' Leave Year) Program（初年次長期自主活動プログラム）
- 東京大学グローバルリーダー育成プログラム（UTokyo Global Leadership Education Program: GLP）
- 国際工学教育推進機構：バイリンガル・キャンパス

  （昭和50年代から英語による大学院コース、工学部・工学系研究科では1,000名を越える外国人学生［博士課程では40%以上］）
- フューチャー・ファカルティ・プログラム（FFP）（大学教員準備講座）

教育プログラムの国際化　①

【東大の国際プログラムの事例】

- （学部レベル）**PEAK: Programs in English at Komaba**

「世界から人材の集うグローバル・キャンパスを形成し、構成員の多様化を通じ、学生の視野を広く世界に拡大する」ことを目指した選抜英語コース。

- （学部・大学院レベル）　**SGU：Super Global University**

　世界トップレベルの研究型総合大学を目指し、海外大学との先端共同研究やグローバル化に相応しい教育システム改革の実施。

→ **国際プログラムを通じたアクティブ・ラーニングの実践**

教育プログラムの国際化②

【SGU事例1】 MITとの戦略的パートナシップの構築（工学）

① 企業連携による共同研究プロジェクトを基盤とした新しい教育システムの構築

② 革新的情報技術国際連携教育研究プログラム

③ MOOCを利用した留学生支援体制の整備

④ 学部生を中心とした国際連携教育の拡充

- 上記4つのプロジェクトをゆるく連結することにより、全体として教育と研究の両方をカバーし、学部学生から大学院生・研究者までを包含する多面的な人的交流を促進することにつながるような戦略的パートナーシップを構築する。

教育プログラムの国際化③

【SGU事例2】 南京大学との戦略的パートナシップの構築

- **社会的戦略** （教養学部）

相互理解の増進：学生共同フィールドワーク等

（共に汗を流す学生交流）

- **教育的戦略**

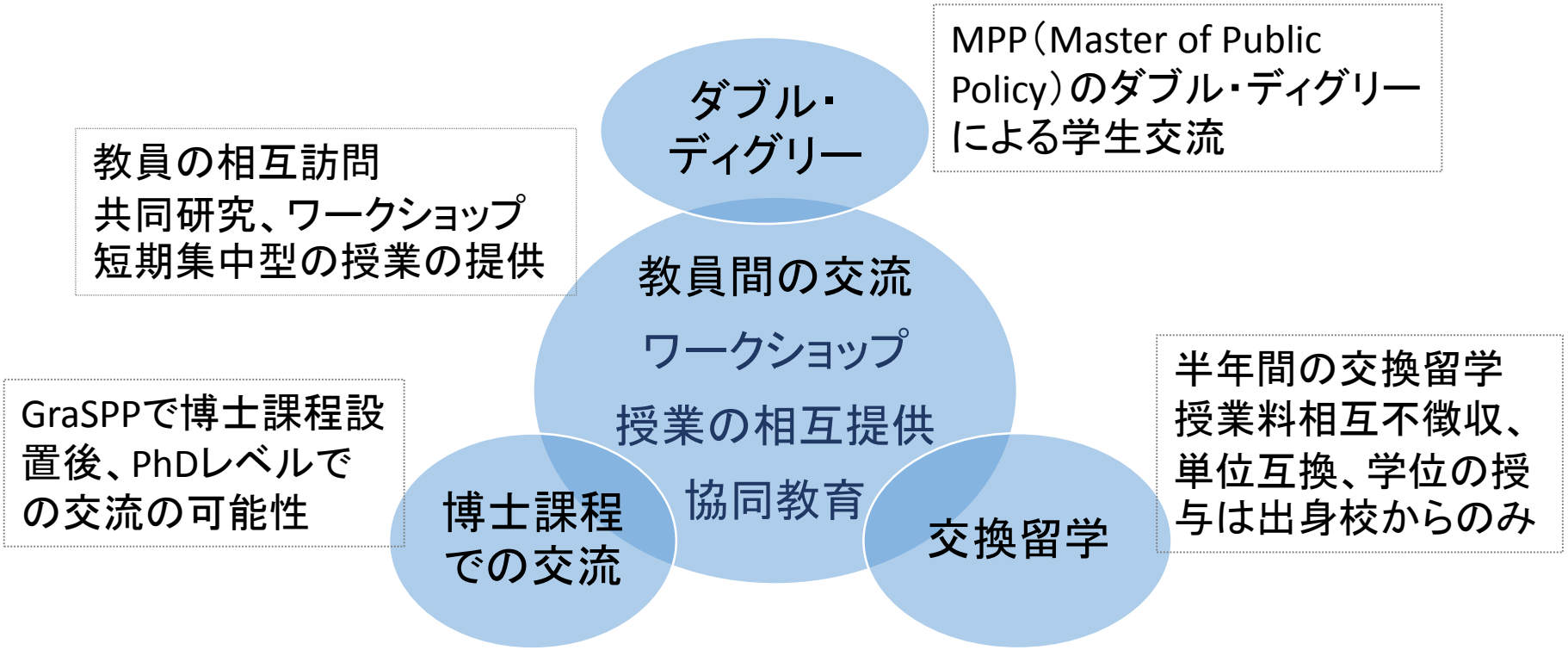
リベラルアーツの国際的展開と還元：南京大学集中講義、シンポジウムの開催等

（共に学びあう教育交流）

教育プログラムの国際化④

【SGU事例3】 オーストラリア国立大学とのパートナーシップの構築

東京大学公共政策大学院＆Crawford School of Public Policy, College of Asia and the Pacificの交流計画　（2015～）



（参考：2015.4 SGUシンポジウム資料）

教育プログラムの国際化⑤

【SGU事例4】グローバル機械工学人材交流プログラム（工学系）

【プログラム概要】

- 実施専攻：機械工学，システム創成学，精密工学専攻
- 対象：　　修士・博士課程学生
- 留学期間：1～12ヶ間
- 交流先：　スウェーデン王立工科大学（KTH）
  スイス連邦工科大学ローザンヌ校（EPFL）
  米国ライス大学
- 人数：派遣，受入ともに10～15名程度

【留学先での活動】

<u>研究型</u>：研究室に所属し，研究プロジェクトに従事（3～10ヶ月）

<u>教育型</u>：東大－KTH間で実施している工学教育プロジェクト（ソーラーボート演習）参加（1ヶ月程度）

教育学部・教育学研究科のグローバル人材育成①

海外実地調査（カンボジア）

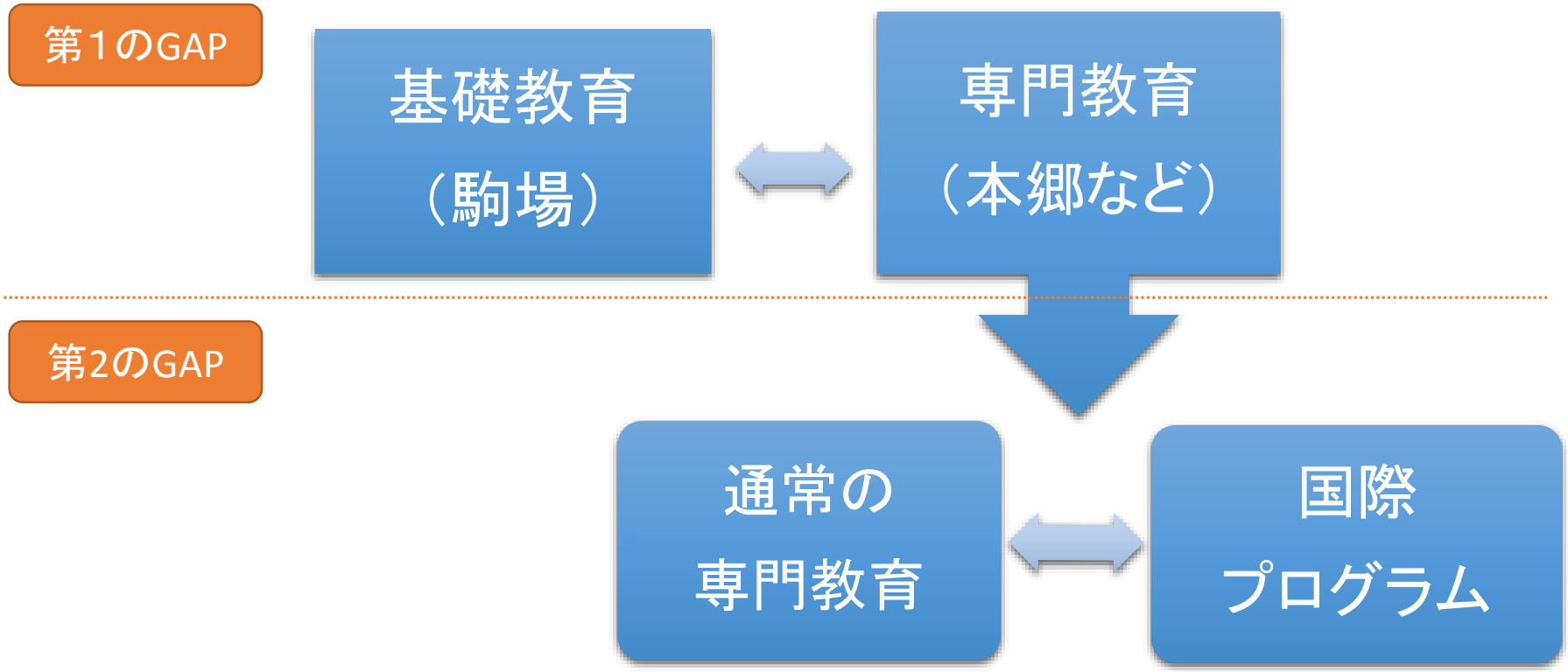
教育学部・教育学研究科のグローバル人材育成②

＜ストックホルム大学教育学部との連携＞

- グローバル・リーダー養成研修（学部生）
- 国際共同セミナー（院生・学部生）←学校教育高度化センターの院生プロジェクト

結び　①

- ２つのGAPs



結び②

- 単純な「経験主義」に陥らない
- あくまでも教育の中身の質を上げるためのアプローチとしての「アクティブ・ラーニング」
- 具体的な改善策
  → 開講科目数を3分の1程度に減らして、より濃密な講義・演習の機会を創出する。

結び③

- 教え授ける「ティーチング」から自ら学ばせる「ラーニング」への授業の転換

- 教員自らの学び⇒意識改革
  - 「Learning Community（学びの場）」の創出
  - 何をどこまで支援するべきか？

- グローバルに「開かれた」、学術的「濃密さ」のあらたな教育へ

ご清聴、どうもありがとうございました。

東京大学大学院教育学研究科
准教授　北村 友人
yuto.kitamura@gmail.com